

# 附属図書館研究開発室成果報告「第5プロジェクト 附属図書館の将来構想の検討」

## 研究課題：将来構想を踏まえた次世代学習スペースのコンセプト及び機能要件の検討

### 1.担当室員

研究代表者：鈴木秀樹（学術情報部）  
研究分担者：谷口孝介（人文社会系）  
逸村裕（図書館情報メディア系）  
宇陀則彦（図書館情報メディア系）  
呑海沙織（図書館情報メディア系）  
協力者：筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース  
学習支援推進ワーキング・グループ

### 2.実施したこと

- (1) 「筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース」による将来構想の検討
- (2) 「蔵書構築・資料配置検討ワーキンググループ」を設置し、蔵書構築・資料配置等を検討

### 3.「筑波大学附属図書館将来構想検討タスクフォース」の活動状況

- (1) 設置：令和元年5月30日（附属図書館運営委員会承認）
- (2) 目的：附属図書館の将来構想の検討
- (3) メンバー：学術情報部長、情報企画課・アカデミックサポート課の各課長・主幹・専門員  
（オブザーバ：副館長）
- (4) ミーティング等
  - ① 令和元年度：ミーティング7回開催、意見交換会3回開催
  - ② 令和2年度：ミーティング3回開催

### 4.筑波大学附属図書館将来構想2022-2027（項目整理）（案）

- (1) 研究力強化ならびに学びの質の向上に資する学術資料の整備  
蔵書整備の方針策定、資料保存・管理・配置の適正化、狭隘化対策、全学的な電子ジャーナル等の整備、電子資料の充実、IIF対応デジタルアーカイブ構築、日本語の歴史的典籍国際共同研究ネットワークへの参画
- (2) 教育や学習を効果的に支援する利用環境の整備及びサービスの提供  
次世代学習スペース整備（バリアフリー化、アクセシビリティ向上、グローバル対応等）、バーチャルな利用環境整備、リモートアクセスサービス拡充、ICT環境整備
- (3) オープンアクセス及びオープンサイエンスの推進  
つくばリポジトリのコンテンツ充実、研究データ管理・公開・保存等の検討、関連部署との連携協力、研究開発室の活動成果活用
- (4) 利用者のニーズに対応した学術情報リテラシー支援教育の展開  
利用者ニーズ（学群生・大学院生、留学生、社会人学生等）に応じた教育支援、教育プログラムとの連携、著作権法改正等への対応
- (5) 情報発信、社会貢献、職員の能力向上  
図書館活動の可視化、ブランディング戦略、つくば市域図書館連携協議会の活動推進、展示会の開催、高大連携サービスの継続実施、研修機会の活用等による能力向上

### <将来構想の検討に関連した動き>

- ・新型コロナウイルス感染症による教育・研究活動への影響  
～オンライン授業の拡大、入構制限措置、デジタル化推進の必要性、学習スペースのあり方再考等
- ・指定国立大学法人構想  
～地球規模課題を解決する「真の総合大学」、全学的チュートリアル教育等
- ・第6期科学技術・イノベーション基本計画（令和3年2月現在、素案の段階）  
～オープン・アンド・クローズ戦略に基づく研究データ管理・利活用等

### <中央図書館の整備（年度内実施予定を含む）>

- ・自動貸出装置の更新・追加
- ・カウンター統合とそれに伴う案内表示の見直し
- ・閲覧席用アクリルパーティション設置
- ・視聴覚ブースの組み換え
- ・周辺環境整備：駐輪場整備、ベンチ・椅子・テーブルの設置

